

創立10周年記念

棚倉町商工会10年の歩み



昭和46年1月

棚倉町商工会

住所 福島県東白川郡棚倉町字北町 142

電話 292 / 番



渡辺
商工
会長



緑
川
副
会
長



半
田
副
会
長

商工会沿革

本町は県の南端に位し、標高 250 m ~ 300 m、地勢は山間部と一部の平坦部に分れ、市街地は平坦部にある。遠く醍醐帝の時、高野郡が出来、これが現在の東白川郡である。昭和 30 年 1 月棚倉町、近津村、高野村、社川村を合併、現在の棚倉町となる。

鉄道（水郡線）国道 118 号南北に有り白河、棚倉間を白棚高速線で結び、県町道四通八通し各路線を国営民営バスにより商港小名浜各地で結び、政治・経済・文化・交通の中心をなす。山林資源に富み木材、薪炭、蒟蒻、椎茸、菌等を生産物としている。昭和 23 年藤田豊作氏外町内有志により経済団体の振興会を設立、唯一の商工団体として経済路線の開発に懸命の努力をほらわれ町当局と表裏一体となり町の振興を計り、戦前の競輪の復活、七夕飾りの行事等棚倉名物として天下に名をなさしめ現在にまで至っている。

昭和 35 年商工会法が公布されるや振興会を発展的解消し、同年 10 月県下に魁け棚倉町商工会が設立され、初代会長として藤田豊作が就任、活発なる事業活動が続けられたのである。爾来会員の良識ある理解のもと歴代の役職員一丸となって町商工業者の発展の為め努力を捧げ県下有数の成績をあげている次第である。

会 長 挨拶

昭和35年商工会法が施行せられてから10周年を迎えたのであります。

敗戦による我国産業は中小企業の生産力と従業員90%以上の努力により急速に快復し、高度成長政策による施策と相俟って国力の増強に寄与して参ったのであります。

商工政策遂行上商工会法により会員の団結と経営の合理化、技術の革新をもたらすことには大きな目的をもって設立せられたものと存じます。

棚倉町に於ては早くから町振興会が設立され、地域開発と町作りに協力し経済界の発展に寄与してより多くの人々が払った功績を多としますが、商工会が設立されると共にその事業は吸収され、今日に到ったのであります。

今日商工会発足10周年記念式典を挙行するに当り、国、県、町当局並びに関係諸機関の方々の多大なる御指導、御協力に対し深甚なる敬意を表すると共に社会・経済の非常なる変革、発展に対処するため会員一同、団結を緊密にし、これからの新たな10年を目指し、中小企業に取って容易ならない時を迎えたのである。今日過去を振り返り、新たな心を持って今後の発展を期することは大きな意義があると存じます。

会員の奮起をうながすと共に、関係皆様の一層の御指導、御鞭撻を御願ひして御挨拶と致します。

昭和46年1月

棚倉町商工会長

渡 辺 正 雄



町 長 祝 辞

中小商工業者の活動を促進し、健全な発展を図るべく商工会の組織等に関する法律（商工会法）が施行されて、ここ 10 周年の記念すべきときにあたり、商工会員の皆様と共に御慶び申し上げます。

我が国経済も 30 年代後半より急激な発展を続け、国民総生産において G N P 第 2 位を確保する迄に至ったが、このような高度経済成長下にあつて中小企業者をとりまく環境は著しく変化し、特に人口の都市集中化に伴う地域構造の変化、モータリゼーションの発達による消費行動圏の拡大、更には労働力不足と賃金上昇の進行などの激しい環境変化に直面し、経済活動にも大きく影響を及ぼしつつあり、今こそ商工会を中心として商工業者の堅い結束のもとに商工業の近代化、合理化を積極的に推進すべき時期であると思われまます。

幸い本町商工業者の活動も商工会の積極的な事業の推進により県南地域における中枢都市として更に水郡沿線の中心都市としていよいよ伸展途上にあることは誠に御同慶に堪えないところであります。この間熾烈極りない経済環境の中で商工会の運営並に商工業者の育成指導に尽された役職員の方々に対し深い敬意と感謝を申し上げる次第であります。

町においても多様化する現代社会に対応すべく振興計画を柱として地域環境の整備、産業振興施策等を重点に町振興基盤の確立を図り「明るい、住みよい、豊かな郷土」の実現に懸命な努力を傾注して参る所存でありますので、町民各位の一層の御理解、御協力をお願い申し上げます。

今後益々激しく流動化する経済環境にあつて、本町産業の基盤をなす商工業の飛躍的な発展と商工業者皆様方の御繁栄を心から祈念し祝辞といたします。

棚 倉 町 長

藤 田 芳 之 助



知 事 祝 辞

このたび商工会法施行 10 周年記念行事として棚倉町商工会 10 年の歩みを発刊されるにあたり一言お祝いを申し上げます。

当商工会は創立以来 10 年目を迎え、この間地域商工業に対する経営改善普及事業も軌道にのり、着実に実績をあげておりますことは会長始め役職員各位のご努力の賜と深く敬意を表する次第であります。

ご承知の通り、わが国の経済は近年著しい発展成長を遂げておりますが、中小企業の大企業に対する生産性、あるいは技術水準の格差は依然として大きく、また、労働力の不足、発展途上国の追上げ、資本自由化の進展など中小企業をめぐる最近の経済環境はきわめてきびしいものがあります。

反面、国民の消費水準は向上の一途をたどりつつ、しかも資的に高級化、個性化の傾向をみせており、大量生産、大量消費の中で中小企業に適した新しい分野の展開がみられるのであります。

この様な情勢の中にあつて、中小企業が発展していくためには技術水準の向上、設備の近代化、製品の高級化、事業の共同化等を進めて生産性を向上させる必要があります。

このため、県といたしましては、中小企業構造の高度化、近代化を進めるため、経営、金融あるいは技術等の面で一連の施策を講じ、その拡充強化をはかっているところであります。

当商工会におかれましても、10 周年記念を機に経営改善普及事業を更に推進されますとともに、地域商工業者の中心機関としてその機能を最大限に発揮され、本県産業の振興に寄与されますよう期待する次第であります。

終りに当商工会の今後のご発展とご活躍を祈念いたしまして、祝辞といたします。

福島県知事

木 村 守 江

棚倉町人口	17,000人
事業者数	775人
商工会員数	417人

昭和45年度役員

会長	渡辺正雄	副会長	緑川百代
		〃	半田信次

顧問相談役

藤田芳之助	古市一与	笈文治	高橋正太郎	宗田謙
吉田幸蔵	竹田茂隆	後藤恒次		

監事 小倉清 上田豊次郎

理事

杉山茂	大沼亀寿	菊地富吉	立原新年	和田秀寿
高田喜一	吉田昆吉	速藤英一郎	須藤友弥	渡辺宏
真岡典雄	大高德司	藤田嘉平二	古沢義孝	鎌田幹雄
沼田清次	大野正男	安部栄	竹田茂	藁谷嵩

青年部長	面川勝義	婦人部長	鈴木淑子
副部長	近藤清明	副部長	高坂幹子
		〃	立原愛子

事務局 庶務部長	星野美雄	経営指導員	小野里保雄
補助員	田部井俊子	記帖専任職員	甲賀謙司
事務員	部ひろ子		

役

昭和35年，36年度

会長	藤田豊作	副会長	竹田茂隆
		"	宗田兼
監事	半田信次	宗田喜八郎	
理事			
	佐藤清一	杉山一清	小林一郎
	武川元市	高田喜久三	狸塚量助
	川丘孝男	大竹助太郎	富沢欽哉
	松本宗次	久保田兼治	藤田勝栄
	和知喜久	宗田定三	藤田高
事務局	事務局長 大峰 巖	事務員	佐藤愛子
			近藤重良
			川瀬信雄
			小森市雄
			緑川百代
			近藤政信

昭和37年，38年度

会長	渡辺正雄	副会長	吉田幸藏
		"	竹田茂隆
監事	半田信次	燕木房雄	
理事			
	市川秋雄	杉山一清	高橋喜久弥
	武川元市	戸倉正	小倉清
	川瀬信雄	近藤貞一	牧野善八郎
	富沢欽哉	小森市雄	宗田喜八郎
	久保田兼次	藤田勝栄	緑川百代
事務局	庶務部長 仁平昌雄	経営指導員 大峰 巖	
	補助員 八巻忠弘	事務員 田部井俊子	
			吉成正二
			狸塚量助
			松本宗次
			井上泰作
			和知喜久

員

昭和39年，40年度

会長	渡辺正雄	副会長	吉田幸藏
		"	竹田茂隆
監事	半田信次	蕪木房雄	
理事	市川秋雄	辺見新一	高橋喜久弥
	戸倉正	小倉清	武川元市
	斎藤俊一郎	和田善三	落合包時
	坂本幸太郎	富沢欽哉	小森市雄
	宗田喜八郎	伊藤源次郎	藤田勝栄
	和知喜久		吉成正二
			渡辺清
			照沼義
			松本宗次
			緑川百代
事務局	庶務部長	星野美雄	経営指導員
	補助員	田部井俊子	大峰 巖
			事務員
			鳥居塚 征子

昭和41年，42年度

会長	渡辺正雄	副会長	緑川百代
			半田信次(42.5)
監事	半田信次	古沢義孝(42.5)	小林一郎
理事	杉山茂	大沼亀寿	高橋喜久弥
	戸倉正	小倉清	武川元市
	遠藤英一郎	和田善三	真岡典雄
	大高德司	小森市雄	大野正男
	須藤貞雄	大梶実	根本美吉
事務局	庶務部長	星野美雄	経営指導員
	補助員	田部井俊子	大峰 巖
			事務員
			真岡 富美子

昭和43年，44年度

会長	渡辺正雄	副会長	緑川百代
		〃	半田信次
監事	和田秀寿	藤田嘉平二	
理事			
杉山茂	大沼亀寿	高橋喜久弥	吉成正二
戸倉正	小倉清	武川元市	穂積利平
大高德司	遠藤英一郎	和田善三	須藤貞雄
大梶実	古沢義孝	真岡典雄	坂本幸太郎
莊司信勝	藤田勝栄	大野正男	加藤寒一
事務局	庶務部長 星野美雄	経営指導員 大峰 巖	
	補助員 田部井俊子	事務員 西牧洋子	

— • — • — • —

昭和37年	青年部結成	会員	50人
昭和41年	婦人部結成	会員	110人

商 工 会 の 事 業

- (1) 商工業に関し相談に応じ指導を行なう。
- (2) 商工業に関する情報及び資料を収集しおよび提供する。
- (3) 商工業に関する講習会、講演会を開催する。
- (4) 展示会、共進会等を開催し、およびこれらの開催のあつせんを行なう。
- (5) 商工会として意見を公表して、これを国会行政庁に具申し及び建議すること。
- (6) 行政庁等の諮問に応じて答申する。
- (7) 商工業者の委託を受けて当設商工業者が行なうべき事務（その従業員のため事務を含む）を処理すること。
- (8) 前各号に掲げるもの、ほか本商工会の目的を達成するため必要な事業を行なうこと。
- (9) 国及び県の長期低利資金のあつせん、償還事務の代行を行なう。
- (10) 以上の外当会年中行事について。

毎年4月桜花らん漫たる節自転車競技大会実施

〃8月全町豪華なる七夕飾り、夜全国花火大会実施

年2回中元年末全町一丸となって大売出し実施

◎事業運営の推進を計るため下記の委員会を置き活発なる活動を行なう。

金融税務委員会

商業委員会

工業委員会 （各委員会共理事4名 業種別代表若干名）

観光委員会

労務委員会

年度別財政規模（決算額）

区分 年度	会 費	国、県補助額	町補助額	その他	合 計
昭和37年度	276,505	469,120	880,000	1,025,817	2,651,442
38	283,990	566,500	1,660,000	1,289,332	3,799,822
39	442,760	583,000	1,790,000	736,006	3,551,766
40	483,440	698,000	1,230,000	879,646	3,291,086
41	654,210	968,500	1,700,000	932,304	4,255,014
42	716,200	1,158,200	1,650,000	1,057,243	4,581,643
43	711,250	1,209,900	1,800,000	1,800,987	5,522,137
44	724,400	1,392,824	1,600,000	1,239,707	4,956,931
予 算 額 45	1,362,900	1,885,759	1,750,000	1,441,610	6,440,269

全 員 構 成

1区 60	近 津 70	高 業 部 会 226	
2区 85	社 川 12	工 業 部 会 115	
3区 40	高 野 9	観 光 部 会 35	
4区 50		諸 業 部 会 41	
5区 49			
6区 31			
7区 11			

総 計 417

総 計 417

受 章 関 係

昭和 39 年 8 月
福島県照明コンクールに於て第 2 位受賞

昭和 40 年 5 月
福島県商工貯蓄共済組合より受賞

昭和 40 年 10 月
労働基準局長より受賞

昭和 43 年 5 月
小規模企業団より受賞

昭和 43 年 11 月
全国珠算連盟より感謝状贈呈

昭和 44 年 3 月
小規模企業共済事業団より感謝状贈呈

昭和 44 年 5 月
商工事業協同組合より受賞

昭和 44 年 6 月
国民金融公庫総裁より感謝状贈呈

棚倉町商工会 **祝** 創立10周年記念

地元の清酒

福

フク

賑

ニギ

栄

ワイ

棚倉町

藤田屋本店吟醸

TEL 2145

……満18年の風雪を読者と歩む……

棚倉町民紙

夕刊たなぐら

(毎夕刊, 月150円)

夕刊たなぐら新聞社

社長 金沢 潤

TEL 3068

祝 10 周年 記念

銀盃は商工会と共に大きく飛躍します

東宝酒造株式会社

棚倉町寺山

TEL 3271(代表)

棚倉町大字棚倉字城跡 4

協同組合棚倉専門店会

電話(棚倉)2724

祝 創立 10 周年 記念

棚倉町金融団

ゆたかな暮らしをきずく

白河信用金庫棚倉支店

棚倉町古町二八

電話(代)三一七一

あなたの幸せを守る

大東相互銀行棚倉支店

棚倉町古町乙二一の二

電話(代)二一三一

預金と掛金

東邦銀行棚倉支店

棚倉町古町乙九九の一

電話(代)二二一一

いちばん身近な

福島相互銀行棚倉支店

棚倉町古町四〇

電話(代)三二五一

棚倉町商工会 祝 創立10周年記念

棚倉アローボー

棚倉町南町

藤田建設株式会社
棚倉砕石株式会社

社長 藤田 芳之助

電話 代表 2281
青山工場 2510
プラント工場 3434

祝 10 周 年 記 念

合 資 会 社

上 田 木 材 店

棚 倉 町 古 町 1 6

電 話 2 2 4 6

渡 辺 産 業 株 式 会 社

棚 倉 町 新 町

電 話 (代) 2 2 3 1